

名古屋

# 石田学園報

第8号 平成9(1997).3.15

名古屋明德短期大学  
星城高等中学校  
星城の英中予備校  
星名英図書館出版協会

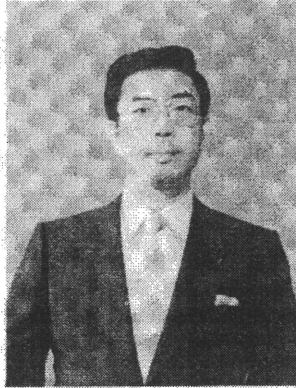
## 60th Anniversary 2001

理事長・学園長 石田正城

名古屋石田学園は21世紀、即ち2001年に創立60周年を迎えます。

語路合わせでなく21世紀の新しい世代の人材を育てうる教育機関に成長していなければなりません。

残すところ4年、如何に全職員が意識を改革



していくかにかかっています。何事も年月が経つにつれてマンネリ化し、快楽の上に胡座をかくのは人間の常であります。創立者石田鎮徳先生は「教育は旧来の陋習と惰眠の上に定着してはならない。日々新たにその目標に向って全身全霊を傾けた生活体験によって——文化の創造——に進進すべきである。」と常に戒めてこられました。

一方日本の教育をめぐる現状は、今や私共の手に負えない広がりや難しさを示し始めています。

つまり教師を中心とした学校の構造、生徒達が教室で教師を権威として垂直状態で見上げているような構造そのものが壊れています。

「ある説明のできない文明の変質、社会の変質が教室の中に入ってきて、学校というものの枠組みを壊しているのだから、学校の問題は果たして学校の中だけで解決できるのか」というこの新しい事態は、中等教育部門だけでなく最近では大学の講義室や研究室にも忍び寄ってきています。その大きな責任は戦

後55年間、日本人として的人格形成、精神的な支えとなる教育がほとんどされてこなかった、即ち確固たる正しい認識に基づいた歴史教育、確固たる道徳、宗教教育が極めて不十分であったことにあります。そのために先祖が営々と築いてきた正しい日本の文化、言語、芸術(文化遺産)に対する理解なしに、また世界における日本の位置づけと役割、自国に対する愛を誇りなしに戦後の世代が育ってきたことにあると思います。

けれども学校教育には昔から何も変わらない原理、時代がどんなに変わっても根本的には動かない不易の哲学があります。私共はその重要な不易な部分の再教育の必要に迫られています。また学校教育機関の行きつくところは指導者の専門的・指導的力量如何にかかっています。密度の高い良い授業はそれによつてのみ可能だからです。そのための自己研鑽し加伸びる方法はないと思います。

本学園では従来、各学校内での研修、また他機関の研修会等に参加してまいりましたが、学園独自の体系化した研修制度はありませんでした。そこで上記の教育環境に対処し、更に今後予想される少子化、進学率、大学臨時定員枠の変動等々、学校淘汰が迫られる厳しい社会環境へ対応していくために、広範な対策を立案・実施する組織を学園として作り、本学園の建学の精神をより鮮明にしていきたいと思います。

具体的には従来各学校の長で議論をしてまいりました教学運営会議を法人本部に教学運営室として設置し、新たに副学園長職を設けてまいります。

以上のように21世紀に相応した充実した研修構図の実現に向け努力をしてまいります。全職員のご協力をお願い申し上げます。

## 教学運営会議



平成8年度第2回以降のテーマは、「何故定員割れをしたか、分析と対応策」

- (1) 将来の展望から徹底した討議
- (2) 全職員による生徒・学生募集のテーマで行われることになった。

特に第2回については、第1回会議の各部門の課題・問題点についても発表があり、突っ込んだ討議が行われた。

### ◎第2回 9月18日 星城高校にて

【短大】…「定員割れの原因」①18歳人口の減少、特に明德に集中 ②実技系校志向者の増加 ③知名度が低い ④PR方法の問題 ⑤全教職員の意識が低いなど。「基本的な対策」①半期制への移行・カリキュラムの全面的改定(9年度より改定) ②特定校対策 ③PR方法の改善④全教職員の共通認識を持つなど。

【高校】…県下トップの応募者で6～7年定員オーバーできた。8年度は多少ブレーキをかけた結果、定員に近い数字になった。対策として教育の中身に踏み込んでいかなければ募集も不可能、それには教職員の意識改革が必要。特に管理職の意識改革、先生方の不安→管理職のリーダーシップで取り除くことが大切。

【中学】…8年度は志願者数が200名を超えたが、厳選した結果入学者数は40名に終わった。対策として・志願者数を250名にもっていき、歩留り率のアップを図る・入試日程の見直し・仰星中学校への校名変更・三河地区の開拓・塾対象の説明会開催などの検討。

【幼稚園】…従来担当者のみで募集活動、9年度から全員で対応→教員にも意識が出てきた・募集地区を緑区へも拡大・親のニーズを考え応える→親とのコミュニケーションを図る。

【予備校】…外的環境がきわめて厳しいことに変わりはないが、100名規模の人数は集められると思う。対策として・高校の進路担当先生の紹介を受ける・PRに重点を置く・学園全職員にも依頼する・星城高校との接触を深める。

【事業部】…テーマ「来年度売上向上の対策」として・販売代理店の見直し・遠方の営業活動として東京書籍の地域に力点を置く・近郊の営業活動として早期PRの展開。

### ◎第3回 11月27日明德短大にて

第3回も同じテーマで議論が交わされ、具体策・経過等について各部門より発表があった。

【短大】…推薦入試の結果：受験者数昨年401名、うち手続者199名 今年314名、うち200名と歩留り率がアップした。合格者対策として・「おめでとうコール」・「学長の呼び掛けメッセージ」等を実施した。今後スカラシップ入試等により窓口拡大を図る。

【高校】…対策として・総務と教務・校務の組織と疎通を深くする・学校をランク別に分けて効率訪問を行う・中高一貫募集の組織作りの検討など。

【中学】…重点的に塾対策を行う①仰星コースの先生も塾訪問 ②面談率向上の為夕方訪問 ③入学した生徒の出身塾の訪問 ④学校説明会に塾の先生にも見に来てもらう ⑤教員による公開授業の実施→説明会日以外でも受入れ可など。

【幼稚園】…募集結果：3歳児79名4歳児21名、うち緑区より6名入園。本年度より32名の増員、最終的に40名程度の増員予定。今後キラキラ生の募集・定着率のアップを図る。(今年度75% 9年度目標100%)

【予備校】…約30校の出身校に対して毎月「生徒報告」実施 → 高校に理解が出てきて今後期待可能・入学案内書に明示する講座名のネーミングを検討など。

【事業部】…9年度より名古屋市の採択教科書が東京書籍から三省堂に変わる。又、中学校英語教科書が改訂。対策として ①特色のあるリスニング教材の編集 ②インパクトのある表紙の制作など。最後に学園長より、来年度は学園本部に教学に関する相談機関を設けることを検討中であると発表があり、平成8年度の教学運営会議は終了しました。

## ＝21プロジェクトから＝ PART2

前号(第7号)の報告以後、7/30、9/19、11/21と3回の会議をもちました。

第5回 [7/30] 先の報告に対する理事の方々の受け止め方から、「具体的に分かりやすい絵を描いて我々を含めた皆が共通に理解できる説明をしましょう」と言うことで、例示として、本部エリアの3部門がそれぞれ所管している業務を図式に整理してネットワーク化によるメリットを考える資料が出されました。個人情報をはじめ、共有に馴染まない情報もある一方、現行のメール方式による情報交換＝連絡・通知・合議等を瞬時に短縮し得ることは確実です。学園全体についてネットワーク化することで事務処理に要する時間の短縮、省力化のメリットは大きいと言えます。情報発信、EX. ホームページについては、中身となる講義概要、授業紹介、研究実績等をデータベースに入力する作業と経費が問題です。当面、各部門は既存のものでやれるところはやり、予算に盛り込めるように工夫することとしました。

第6回 [9/19] メンバーから「前回の資料に立ったネットワーク構成図と予算見積もり」と「システム・リプレイス検討資料と石田学園システムネットワーク スケマティック ダイアグラム」が提示され、それぞれについて質疑応答を重ね理解を深めました。投入経費と得られるであろうメリットの確信と評価に判断が分かれる場面もありましたが、既存の機器設備を活かし、必要に応じ更新、スタンドアロンは解消する方針で一致しました。

第7回 [11/21] 1～6回の概要と各部門のパソコン機種・台数・利用一覧、及び宿題「NWで何がスムーズになるのか？新しいことはできないか？」に答えるメンバーの提案を軸に意見交換をしました。この宿題に対しては、A. 電子メールの利用 B. データベース構築 C. インターネット・LAN利用に二十数項目の提案があり期待の大きさが窺われました。この会議のまとめを、最終報告として理事長に提出するとともに、下記のように第3回理事会に報告しました。

### 「21プロジェクト」協議報告 H.8.12.21

第7回会議 [11/21] 今までの会議の集約と今後の作業 平成8年度 短大情報処理演習室のパソコン機種更新・レイアウト刷新とサー

### バー設置

- A. 平成9年度 以降も継続的・計画的にハード整備する
  - 1. データベース構築
  - 2. ホームページ開設
  - 3. インターネット接続
  - 4. 学園全体のネットワーク化を目指す
  - 5. 短大キャンパス内LAN設置
- B. システム・リプレイス 基本計画に着手する
- C. 整備計画については、各部門の既設機器の更新に対応し、年次計画として予算措置する

21世紀を目前にして私達は高度情報化社会の渦中にあり、研究教育の分野でも管理経営の面でも、家庭生活の中にもコンピュータの利用が否応なしに関わってきています。功罪を峻別し、手の届く可能性のあるメリットは確保する積極性がが必要です。21プロジェクトは一応の区切りとなりますが、パソコン活用「勉強」が広がる職場から、学園の情報環境整備に向けて、協議の中身が活かされることで、役割を果たせると確信します。 <文責 平岡>

### 『第6回 事務職員研修会フオローから』

前号で昨年7月の事務職員研修会の模様を報告しましたが、その後の日常業務での取組みはいかがでしょうか。研修会直後に行ったアンケートでは、「昨年と比べて良い」が67.6%で大幅にアップしました。内容でも、研修1「学園の将来計画講話」、研修2「グループ討論」、研修3「招聘講師講座」それぞれ75%を超える「有意義(参考になった)」評価を得ました。グループ討論のまとめと併せて、そこから抽出した「努力点」をステッカーにして皆さんに配りました。

- ・「でんわ急げ！」(ベル3回、待たせない)
- ・最初の一声、“電話は見えない受付”
- ・対応は「はっきり、ゆっくり、ていねいに」
- ・用件を正確に受け止める 5WHH=伝言メモ活用
- ・取次ぎをテキパキと、保留は短く済むように
- ・来客対応は「待たせず、にこやかに」

日常業務の中のさりげない言葉遣いや、来客や生徒・保護者の目に止まる態度や身嗜みが印象となって学園のイメージが作られていくことを考えると、好感度アップに取り組む一接遇の工夫—ことを意識的に続けたいものです。

“人間形成の学び舎”名古屋石田学園の教職員に相応しい、平成9年度の研修テーマ、内容について皆さんからの積極的な提案を待っています。 <企画室>

## <名古屋明德短期大学>

### ◎平成8年度「公開講座」

明德短大では、地域住民の生涯教育に資するため、又「社会に開かれた教育の場」としての、大学の使命を推進するために実施しているものです。平成3年度より開始され本年で6回目を迎えることになり、今回も10月から12月までに下記の内容で5講座開催、いずれも好評を博しました。

第1講「現代風「長屋」で楽しく暮らす」  
—コーポラティブハウスのすすめ—

講師 中島英司氏 (本学助教授)

第2講「日本ハリストス正教会」

講師 田辺三千広氏 (本学講師)

第3講「転換期の中国」

—自信と不安の錯綜する大地—

講師 井川原賢氏 (外務省アジア局中国課勤務)

第4講「心が通いあう中・高英語授業の実践」

講師 三浦 孝氏 (本学助教授)

第5講「English is a Crazy Language」

講師 マーチン・スナイダー氏 (本学助教授)

### ◎「9年度より資格取得科目開設される」

名古屋明德短期大学では、9年度よりの半期制移行に伴う全面的なカリキュラム改革が行われることとなる。

この中で英語科に「中学教員二種免許 (英語)」資格取得のできる課程が文部省より認可された。

資格取得傾向の高まりの中で今回の教育課程の設置を募集活動に反映させていきたい。

近い将来、小学校にも英語教育が導入されていく動向もあり学生にとっては有効な資格となる。

さらに本学の専攻科に進み学位授与機構より学士の資格が授与されれば「中学教員一種免許」を取得することも可能となる。

また、国際文化科には「学芸員」資格取得に必要な科目が開設される。この資格は博物館、美術館に勤務するために必要なものであり、最近人気の高い資格の一つである。

資格取得に必要なカリキュラムを学修し短大卒業後、博物館等で学芸員補として3年間勤務すれば「学芸員」となれる。

本学の専攻科で学士の資格が得られれば専攻科修了時点で「学芸員」資格が取れる。

このように短大学科と専攻科での学士取得とを組み合わせ、いろいろな工夫を今後ともしていきたい。

### ◎「海外留学制度の充実」

名古屋明德短期大学では平成9年度より海外留学制度に対し充実を図ることとなった。

本学では授業を通して語学力の育成、各地域の文化を研究するカリキュラムが組まれているが、在学生の中には休学をして自費留学をする学生もある。

スカラシップ入試合格者は留学奨学金受給の資格があり、一方他の在学生も入学後、希望者は選抜の上留学奨学金の支給を受けることができる。

留学期間中は在学年数に含まれ、海外で学んだ科目についても復学後本学カリキュラムに単位換算できるものは単位認定することとなる。

これにより海外留学をしても2年間で卒業が可能となり、学生の希望に添える体制となり募集活動にも役立つものと思われる。

### ◎「マルチパーパス総合教育システムの設備充実」

短大では、情報化社会の急速な発達にとまひない、本学の教育機器・情報処理機器の整備には積極的に対応してきた。本学の教育水準の向上充実を計るため、多目的な総合教育システムとして9年度より新しい設備が活躍することとなった。

今回のシステムの教育上の目的・機能としては、

- (1) 国際情報処理教育：国際情報データベースにアクセスし、各種情報を収集・加工する機能と国際ネットワークによる国際コミュニケーションを行う機能
- (2) 語学教育の推進：語学教育・学習を自主的に行える機能
- (3) 情報発信：国際情報データベースを構築する機能および学外・地域社会に向けて情報を発信しうる機能
- (4) 新しい教育形態の実践：教員と学生との新しい関係の模索、幅広い生涯学習への対応など多面的な活用が可能となる。

## <星城高等学校>

### ◎星城高校「育英振興会」が発足

このたび、星城高等学校同窓会・父母の会のご賛同を得て、「育英振興会」が発足する運びとなりました。これは学習意欲がありながら、経済的な事情等により、学習活動を継続することのできない生徒に対して、援助をおこなうものです。

発足については、同窓会及び父母の会役員の方が会費を有効に利用して、学校の発展に寄与していきたいという発想から実現したものです。

今後いろいろな面でも組織的な協力体制を整える  
とのことです。

学校側としても有り難くお受けして有効利用に努  
めていくことになりました。

### ◎「星城高校10校目の姉妹校提携」

星城高等学校ではこのほど、ニュージーランドの  
クライストチャーチ市のカシミヤ高校と姉妹校提携  
を結びました。ニュージーランド側から「学校間の  
交流をしたい」という希望を聞いた名古屋日豪ニュー  
ジーランド協会（内藤明人会長）の橋渡しで実現し  
ました。

星城高校ではこれまでに、カナダ・米国・豪州・  
韓国の高校9校と姉妹関係を結び、毎年計50名ほど  
の生徒が1か月から1年間にわたって交換留学をし  
ているほか、韓国の生徒とは修学旅行で交流してい  
ます。

カシミヤ高校とは当面、生徒数人を3か月ほど相  
互留学させるほか、訪問団も派遣する方針です。今  
後ますます国際交流の輪が広がるものと期待されて  
います。

### ◎「星城高校柔道…日本代表・愛知県代表に!!」

#### \*「アジア地区ジュニア柔道大会に晴れの日本代表」

インド北部のラクナウ市で3月6、7日に開かれるアジア  
地区のジュニアを対象とした柔道大会「第三回インディア・  
カップ国際柔道選手権大会」に日本代表として星城高校の  
伊藤一行君が選ばれました。

出場する県選手団の結団式が2月22日、県武道館(名古屋  
市港区丸池町)で行われました。

インド柔道連盟から同大会への参加打診が県柔連にあり、  
参加を検討。全日本柔道連盟に認められて、県選手団が日  
本代表としての参加。県柔連は国体出場選手を中心に選手  
団を編成、伊藤君が78kg級で選ばれたものです。

大会は二日間で50kg級から無差別級まで7階級で行われ  
ます。結団式には選手や関係者約20人が出席。選手たちは  
「金メダルを目指す」と意気盛んでした。

#### \*「星城高校生が県柔道で1位・2位独占」

9年2月2日(日)に、全国高校柔道選手権大会県予選  
を兼ねた、県高校新人体育大会柔道競技(県教委など主催)  
の男女個人戦が、県武道館で開催されました。

大会には、男子85人、女子129名が参加。女子は体重  
別に7階級に分かれ、男子は無差別級だけの競技であった  
が、男子の部では星城高校から参加した二年生2人が決勝  
戦まで残り、鶴田竜也君が山川裕之君に勝ち、星城高校生  
2人が1位・2位を独占しました。

全国大会での活躍が大いに期待されます。

## <星城中学校>

### ◎「オーストラリア語学研修印象記」

星城中学校 3年生



去る平成8年10月8日より19日までの12日間、私  
達50名は夢にまで見たオーストラリアのメルボルン  
へ語学研修に行ってきました。一口で印象を語れば  
「素晴らしい。」です。その間体験した1つ2  
つを以下お知らせします。

・私がオーストラリアで一番感動したことは「出  
会い」でした。ホテルで、バララットで、メント  
ーンで、ウェスレーで。顔も知らなかった人の家にお  
世話になり、一緒に遊び、授業にでて。もう2度と  
会うことはない。そして私のことなど忘れてしまう  
人が殆んどでしょう。しかし別れの挨拶の時に泣い  
てくれた人達を私は忘れません。(M・O)

・バララットは自然が多くとてもんびりした町  
でした。姉妹校の近くには大きな湖があり、サイク  
リングをしている人、散歩やジョギングをしている  
人など多く見られました。私が住んでいる名古屋が  
とても忙しく、さわがしい街であることに気付かさ  
れました。こうしたのんびりとした町だから、温か  
い人が多いのだらうと思いました。その他にも、日  
本では味わうことのできない事を多く経験すること  
ができ、とてもよい研修となりました。(A・O)

・英語が通じた、ということが私には一番強く残っ  
ています。学校で英語の授業をしているだけだと、  
何となく不安だったのですが、実際に会話をして  
ると分ってくれて、自信ができました。バララットの  
家庭では、学校から日本語に関するプリントをもらっ  
ていて、日本語で話してくれたり、またゆっくり語  
りかけてくれました。

日本語の教科書を見せてもらったら、平仮名と片  
仮名を習っているところでした。オーストラリアの  
人にとって日本語を習うことは、かなり難しいと思

います。日本には英語が日常的に入ってきているけれど、オーストラリアには全くそれがないわけで、ゼロから勉強していくところが、私達が英語を学ぶのと少し違うような気がしました。(A・T)

#### ◎「第4回感謝祭」

本年度も生徒の日常活動の発表の場として感謝祭が、9月21日、22日の両日にわたり実施されました。

主な内容として、

1日目…英語弁論大会、7月29日から2泊3日で静岡県の妻良での体験学習(リーダー研修)発表会、器楽演奏会

2日目…内観体験発表会、琴・尺八演奏会、展示、演技、後援会…茶会、バザー

保護者・後援会の協力参加も得て素晴らしい成果を挙げることが出来ました。

尚、表彰者は次のとおりです。

英語弁論大会……最優秀賞 富士真千子さん  
内観研修発表会…最優秀者 半谷 恵麻さん  
＜星の城幼稚園＞

#### ◎「運動会」

10月20日(日)雲一つない青い空のもと、星の城幼稚園の運動会が、保護者など800名程の観客が集まり行われました。例年のように年長組による「桶狭間太鼓」で幕開けです。

今年は午前中で終了するので、8時30分に始まりました。寒くないかと心配したのですが、半袖半ズボンでがんばることができました。年中組の「かけっこ」に続き、年少組が腰みのとレイをつけて「南の島のハメハメ大王」の曲に合わせて踊ると「かわいい。」などの声が上がリ、大きな拍手が湧き上がりました。未就園児の方にも招待状を出していたので100名程の参加者があり、お母さんと一緒に年長組さんの橋を「ロンドン橋」の曲に合わせてくぐりました。年長組は、夏の仰星合宿で自分達で作った「クラスカラーのしぼり染めTシャツ」を着ての参加です。平均台・キャタビラー(ダンボールで作って中に入って動かすもの)鉄棒・ケンパ・なわとび・バランスボックリ・跳び箱などそれぞれの得意技をひろうしました。

お母さんの競技「ボール送り」、お父さんの競技「ジャンケン列車」にもたくさんの参加があり、日頃の運動不足の解消とばかり、はり切る姿もみられました。最後のプログラムは年長組のリレーです。

保護者の方の応援にも熱が入ります。



抜きつ抜かれつして最終ランナーになって、応援は一段と大きくなり、1着、2着、3着と走者がゴールインしたあと4着の走者にもおしめない声援が送られました。「ひとりひとりが自分の力を十分に発揮してがんばりました。」と最後に園長先生のお話して幕を閉じ、おみやげをクラスの先生にもらって帰途につきました。

#### ◎「遠足」

10月25日は子どもたちが楽しみにしていた東海市大池公園への遠足でした。天候があやぶまれましたが当日は晴天に恵まれ、気持ちのよい青空のもと、元気に出発しました。

バスの中では、お母さんに作ってもらったお弁当のことや、自分達で買いにいったお菓子(年長、年中は幼稚園の近くの駄菓子屋さんで買いました)のことで話しがはずみました。

大池公園については各クラスごとに、ヤギやポニー、うさぎといった動物をみたり、芝生広場でゲームを楽しんだ後に、お待ちかねのお弁当です。

今日はお母さん特製のお弁当です。早速お弁当の見せっこがはじまりました。「私のお弁当はアンパンマンおにぎり!」と言う子がいれば、隣では「リンゴのうさぎがあるよ」と言う声も聞こえてきます。

気持ちのよい青空のもとで食べるお母さん特製のお弁当は本当においしそうでした。

お弁当のすんだ子から仲のよい友だちとすべり台や、ジャングルジム、トンネルくぐりなどの遊具で元気よく遊び、十分に楽しい時間をすごすことができました。

帰りのバスの中では遊びつかれて、眠ってしまう子もいましたが、大池公園で遊んだことについて友だち同話し合いながら幼稚園に向かいました。

天気もよく、本当に楽しい一日をすごせた遠足でした。

## <名英予備校>

- \* 「冬期講習会」 12/24～28、1/4～6  
各教科の入試直前対策講座のほか、南山大テストゼミ、センター対策ゼミなど20講座を開講。同時に星城高女子部特別講座も開講。(参加 225名)
- \* 「南山大入試シミュレーション」 12/29  
南山大模試に代わって今年度は冬期講習の一環として、シミュレーションテストを実施。自己採点方式のテストであったが受験者の評判は上々。(参加 84名)
- \* 「合格手帳の発行」 12/20  
2年前から発行している合格手帳を今年度も発行。DMや高校持参で、約11,500通を受験生に配布した。
- \* 「冬期集中学習会」 1/2～3  
正月を返上し、予備校にカンヅメになったの集中学習会を実施。職員も全員出勤し、受験生を応援した。終了時には、ささやかなお年玉として福引大会を行った。(参加32名)
- \* 「第5期直前対策講座」 1/8～29  
冬期講習会明けの1/8～から、私大入試対策として計10講座を開講。大学入試センター試験をはさみながら、最後の追い込みに励んだ。(参加 100名)
- \* 「新年度生受付開始」 2/15～  
平成2～4年のピーク時に比べ、私大入試はかなり易しくなり、各高等学校の浪人数が減少。本校も厳しい状況が続いているが、2月・3月は高校訪問、DM発送、入校説明など必死に募集活動をしている。  
9年度の募集コースは以下のとおり。  
[昼間部] 名大文系/名大理系/国公立文系/国公立理系/南山大/私立文系/私立理系/アラカルト  
[夜間部] 高3総合。他に科目履修、高2英語を受けつけている。

## <名英図書出版協会>

- ◎ 「中学校教科書改訂の年」  
平成9年度中学校教科書改訂に伴い、教材が新しく生まれ変わりました。ペンマンシップ 4種、ワークブック 7種、単元テスト 6種、リスニングテスト 9種、文型ドリル 3種に、継続発行の6種を加えて、来る春の本番を待ち望んでいます。  
今回編集面で力を注いだ点の一つは、それぞれの教材の表紙です。生徒が手にする教材(ワーク、ドリルなど)は生徒の目になって、先生が手にする教材(テストプリントなど)は先生の目になって、モチーフを精選しました。そして、時代の流れを汲ん

で、最新のCG(コンピュータ・グラフィックス)で制作しました。



また、ワークブックの一部の種類に、今回初めてDTP(デスクトップパブリッシング)を試み、コンピュータならではの修正の速さ、色校正の容易さをスタッフ全員が実感しました。近い将来、編集者も印刷業者も机の前に座ったまま、繋がったコンピュータを通してすべての作業がすすめられるのが、当たり前の世の中になることでしょう。

## 『地域交流に貢献』

### ◆名古屋明德短期大学

#### ◎ 「東海市国際交流協会の研修」

東海市国際交流協会は、初めての市民国際理解海外研修事業として、16人が8年9月21日から28日までインドネシアに行きました。

明德短大と交流のある首都ジャカルタの私立女子大、タラカニタ大学の学生4人が7年10月に、明德短大を訪問したのが縁で実現したものです。

東海市一行は男性3人、女性13人で、年齢は19歳から54歳まで。遺跡・衣装・料理・芸能の各研究テーマごとに4班に分かれて研修しました。

ジャワ島とバリ島の計7都市を訪問し、ジャカルタでは、タラカニタ大生の家庭でホームステイも。

一行は百聞は一見にしかずで大きな成果を上げて帰国、明德短大の国際交流と日頃の地元密着が、今回の研修事業に大きく貢献したものと思われます。

### ◆星城高等学校

#### ◎ 「豊市長杯高校女子ソフトボール」

第5回豊市長杯全国高校女子招待ソフトボール大会が12月25日～27日の三日間、豊明市でおこなわれました。

15の県から16チームが参加。初日は4組に分かれて予選リーグを行い、各組の順位により26日から決

勝トーナメントが行われ、愛知県代表として夏のインターハイ出場した我が星城高校が出場。

その他インターハイや3月の全国選抜大会に出場を決めた強豪校ばかりがそろい、白熱した試合が繰り広げられました。

開会式では中日新聞社のヘリも祝賀飛行し、花束と始球式のボールを投下。本大会は日頃の地域との交流が実り、豊明市で開催されているものです。

なお、結果はつぎのとおりです。

優勝：埼玉栄高校(埼玉)

2位：白藤学園高校(奈良)

3位：聖和学園高校(宮崎)

星城高校は7位という成績でした。

#### ◆星城中学校

#### ◎「東海三県中学校英語弁論大会」

名古屋石田学園主催の東海三県中学校英語弁論大会が、11月3日星城高校石田記念館で開催。

愛知・岐阜・三重の86校から代表1人ずつが出場。午前中に予選を行い、20人が最終審査に進出。

発表は4分以内で発音や表現力、態度などが審査された。学校生活や日常で感じたことや体験などを発表、聴衆から盛んな拍手を浴び終了しました。

入賞者は次のとおりです。

優勝 西尾市福地中学校 3年 永谷亜希子さん

2位 豊橋市桜丘中学校 3年 長尾 真奈さん

3位 岡崎市竜海中学校 3年 伊藤 真未さん

#### ＝97前期 名古屋明德短期大学公開講座

#### オープンカレッジ開講へ向けて準備中！＝

昨年の夏休み、5週間に亘って短大キャンパスで開講した名古屋明德短期大学生涯学習講座96オープンカレッジには25講座と2特別講演会に延べ554名の受講者がありました。また秋の第6回公開講座5講にも延べ176名の受講者がありました。どの教室の方々も熱心な受講態度で、講師の先生への質問や相談も活発でした。こうした結果を受けて、アンケートに寄せられた要望も組み込んだ平成9年度計画が地域交流委員会から示されました。

平成9年度はオープンカレッジを夏休みに前年度開講するほか、通常期も前期(4月～7月)、後期(9月～12月)に分けて土曜昼間、短大で開講[90分×10回]し、更に平日夜間には短大と名古屋(本部建物)でも開講する運びとなりました。本学の特色を生かした英会話、情報(パソコン、ワープロ)、教養を中

心に趣味や軽スポーツ等ニーズに応える講座を用意したいと努めています。

また、第7回公開講座についても外部講師を2名に増やし、前期2講、後期3講と開講時期を分けて開催することが地域交流委員会で決定されました。

私学にとって厳しい外部環境のなか生き残りを賭けて、9年度もこのように新しい取組みに挑戦することになりました。

特に4月開講の前期講座については、受講者募集の広報の最中です。お手元にチラシも届いていると存じます。ぜひ皆様のご協力、ご支援を頂きたく、知人や仕事関係からご近所回りの方々へPRと勧誘の声をかけて下さいますよう、お願いします。

＜企画室＞

#### ○第7回名古屋明德短期大学公開講座<入場無料>

第1講 6月14日(土)14:00『フランス的思考』

本学1号館 201教室 早川雅水 国際文化科教授

第2講 7月5日(土)14:00『まちづくりと生涯学習』

本学1号館 201教室 新田照夫 英語科教授

#### 「平成9年度入学(園)式」

平成9年度の各学校の入学(園)式は下記の日程で行われます。

#### 記

9年4月2日(水) 10:00～ 星城中学

4月3日(木) 10:00～ 明德短大

4月5日(土) 9:30～ 星の城幼稚園

4月7日(月) 9:30～ 星城高校

4月18日(金) 9:00～ 予備校(オリエント)

#### 『編集後記』

今年度は、8年10月と合せて2回発行することができた。学園は、予備校に限らず、学生・生徒数の減少により厳しい局面に立たされている。各部門とも募集対策には積極的に取り組んでいただき、成果も徐徐に出てきている。一方、高齢化社会も進んでおり「生涯学習事業」でもいろいろな講座が開かれている。学園は平成13年(西暦2001年)に60周年を迎える。幼稚園から中、高、短大、専攻科という小学校を除く一貫教育の優位性をどう活かすかが今後の課題であろう。学園全体が一致協力、経営的努力は勿論、教育内容の一層充実を図ることが21世紀へ向けて、今一番大切なことと思う。